

【中学生議会 部長答弁様式2】

質問区分	代表・一般	議員名	上条藍悠 議員
発言順(通し番号)	NO:6	所管課・室名	観光交流促進課

質問事項	<p>安曇野市を PR するには観光しやすい街にすることが大事。写真やイラストの入った看板を駅前・IC 前に設置し、迷わないようにする事を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看板を有効活用するためにマップやインターネットへの情報掲載、看板の位置で現在地の確認や、道を説明する時の基準とすれば説明しやすくなる。 ・案内所を IC 前や市内各観光スポットの窓口等に配置し、観光客への次の目的地や電車の時刻等の案内、渋滞時は空いている道を案内し渋滞の緩和につなげるとともに、観光客の知らない観光スポットも案内する。 <p>①渋滞緩和や道に迷うことの減少 ②①により多くの場所をじっくり観光でき、安曇野の良さを知ってもらえる ③帰った後、また来たいと思ってもらえ、さらには口コミ等で良さを広げてもらえて誘客できる効果が期待できる。</p>
------	---

【部長答弁】

上条議員のご質問にお答えします。

安曇野市を観光しやすいまちにするため、看板の有効活用と、案内所の設置等についてご提案をいただきました。

安曇野市のほとんどの観光案内看板は、合併前の旧町村が設置したものです。そこで、現在、新しい安曇野市のロゴマークを基調としたデザインによる、新たな観光案内看板の設置について事業者から提案をいただき、市内の観光案内看板を全市的に見直し、どこにどのように配置し、どのようなものを掲示していくのか検討しているところです。

また、近年、人口減少による国内旅行者の誘客が厳しくなる中で、インバウンドと言われる、外国人旅行者を誘致し需要拡大を図るため、外国人旅行者に解りやすい情報提供をするための環境づくりが課題となっています。国内旅行者のみならず、

増加する外国人旅行者への観光情報を提供する手段の一つとして、多言語による表示により、新たな情報発信につなげていきたいと考えています。

具体的には、スマートフォンの普及拡大に伴い、それを活用したコンテンツの提供が急速に拡大していることから、外国人旅行者を含め、その利用実態に応えるため、Wi-Fi アクセスポイントの設置等環境整備を進めるとともに、多言語化対応したアプリケーションソフトによる、安曇野市の多面的な観光情報の発信に向けの取り組みを進めていきます。

観光案内看板等での情報提供が不足する部分については、スマートフォンのソフトで対応することも想定し、観光案内所を設置しなくても、大規模観光施設へ流れがちな国内外の観光客を周辺観光施設へと誘導を図り、より多くの観光スポットを周遊していただき、安曇野での滞在時間の延長に繋げたいと考えています。

安曇野を訪れた方々に安曇野ファンになっていただき、何度でも訪れていただけるよう、安曇野の豊かな自然景観や、先人が築いてきた歴史や文化を守り、観光資源を磨き上げ、多くの人に伝え、観光しやすい街となるよう取組んでまいりたいと考えます。

【中学生議会 部長答弁様式2】

質問区分	中学生議会	議員名	向山恵介議員
発言順(通し番号)	NO:7	所管課・室名	(観光交流促進課)

質問事項	自転車による観光客の増加に伴う、自転車道の設置やカーブミラーや自転車置場の設置について
------	---

【部長答弁】

続いて、向山（むかいやま）議員のご質問にお答えします。

安曇野の自然景観や歴史・文化は、昔ながらのゆったりとした暮らしの速度のなかで育まれてきたものです。安曇野の良さを実感するには車窓からだけでなく、歩いたり、自転車でのスピードが安曇野の魅力を感じてもらえるものと考えております。

さらに、安曇野のさわやかな風を感じ、綺麗な水や澄んだ空気を体感していただく観点からも、観光客の自転車利用については、観光振興を図る上で、有効な手段であります。

安曇野市での自転車道等の整備につきましては、平成25年度・26年度に掛けて策定しました、道路整備推進計画に「自転車道等の整備」として盛り込まれております。

この計画では、自転車専用道の新設にとらわれず多様な手法により、安全かつ快適な自転車道ネットワークの構築を図り、観光のみならず、日常生活での自転車利用も促し、自転車道の整備に取り組んでまいります。

また、既に整備されている「あづみ野やまびこ自転車道」を最大限に活かして、安全かつ快適な自転車道の環状化を図り、これを骨格にして主要な駅や観光施設にアクセスする自転車道の整備を図り、ネットワーク化していくとしております。

なお、カーブミラーにつきましては、自転車道に限らず、道路の施設として必要なものでありますので、各地域からの要望

により、必要に応じて設置をしております。

自転車置場の設置につきましては、「鉄道を利用しての通勤・通学者」と「施設の従業員や買物等の利用者」そして、「観光客」に大きく分けられ、それぞれ駐輪時間も異なります。これらの利用者の特性に応じ、駅等市で検討するもの、施設や観光地等民間で検討するものなど、それぞれの特性にあわせた対応が必要となります。観光関係の民間施設につきましては、車や歩行者の迷惑にならないよう白線を引くなど指導をしていきます。

また、自転車置き場について、市民が主体となって整備することが必要とのお考えですが、たとえば、自転車置き場に自転車を止めるときは整然と駐輪する、落ちているゴミを拾うなど、皆さんの日頃の小さな心がけが「おもてなし」であり、観光客の皆さんを気持ちよく迎えることに繋がることから、とてもありがたいことです。

さらに、市民の皆さんが観光客の方とすれ違う時にあいさつするなど、できることから実践していただき、自転車だからこそできる交流により、安曇野ファンを増やしていただくようお願いし、内山議員への答弁を終わります。

【中学生議会 部長答弁様式2】

質問区分	代表・一般	議員名	濱田清空 議員
発言順(通し番号)	NO:8	所管課・室名	商工労政課

質問事項	工業について
具体的な内容 (質問取り事項)	<p>僕が安曇野市の産業の中で一番課題があると思うのは、工業です。工業の中でも課題があると思うのは製造品出荷額の減少で、このもっとも大きな原因は事務所数の減少だと考えます。安曇野市は、製造品出荷額が県内四位とかなり高いですが、それでも出荷額は年々徐々に減っていて、事務所数の数も減っています。</p> <p>ここ安曇野市に事業所を置いてもらうためには、安曇野市が他とは違う貴重で、素晴らしいものを持っている、ということを知り、県、全国に伝えなければならないと僕は考えます。</p> <p>では、その他とは違うここだけのものとは一体何なんでしょう。それはこの市の自然に関わるもの、環境に関わるもの、人や産業に関わるもの、いろいろあると思います。どういふもので、何に関わるのか。それを発見、導き出すことが今の自分にできることだと考えます。また、これは、安曇野市民全員が考え、それに自信を持ち、周りに誇れようにしてほしいと思います。</p> <p>しかし、自分たちが自慢できると思える答えを持っていてもそれだけでは事業所は置いてくれません。そこで、安曇野市では、企業が事務所を置きやすいような仕組みや環境の整備をすることが大切だと思います。また、市の存在をアピールするために、市民にアンケートをとり、それをもとに市のキャッチコピーを考え、事業所を置きやすい環境整備などととも、外部に発信してほしいと思います。それに対して僕は少しでも市に協力できるよう、周りの人にここだけのものをお考えしてもらおうと思います。</p> <p>今自分たちが住んでいるこの市に誇りを持ち、他の市、県、そして国にまで自慢できるようなことがあれば、安曇野市は活気に満ちた素晴らしい市になり、企業も事業所を置いてくれ、製造品出荷額も増加すると思います。</p> <p>安曇野市に事業所を置いてもらうためには、安曇野市が他とは違う貴重で、素晴らしいものを持っている、ということを知り、県、全国に伝えなければならないと僕は考えます。</p> <p>安曇野市では、企業が事務所を置きやすいような仕組みや環境の整備をすることが大切だと思います。また、市の存在をアピールするために、市民にアンケートをとり、それをもとに市のキャッチコピーを考え、事業所を置きやすい環境整備などととも、外部に発信してほしいと思います。</p> <p>今自分たちが住んでいるこの市に誇りを持ち、他の市、県、そして国にまで自慢できるようなことがあれば、安曇野市は活気に満ちた素晴らしい市になり、企業も事業所を置いてくれ、製造品出荷額も増加すると思います。</p>

【部長答弁】

続いて、濱田（はまだ）議員のご質問にお答えします。

工業関係では、近年、安曇野市の環境、イメージ、地域資源の活用面から、市外からの新たな企業進出と雇用創出は、平成 22 年度から 26 年度までで、17 社で 710 名程度となっており、企業誘致の成果が雇用の創出に繋がっております。

さらに、新たな産業の取り組みとして、農商工連携推進事業があります。まさに安曇野は「水」を中心に、農産物等の豊富な資源があり、これらを活かした農商工連携や産学官連携により、付加価値の高い独自製品の開発や、新事業の起業を積極的に支援し、具現化の芽も出てきており、このことが新たな雇用の創出にも繋がるものと期待しております。

昨年度の工業振興ビジョンの見直しでは、「新産業団地の造成の必要性」、「工業振興を図るための魅力あるまちづくり」が議論され、このことが、今回の地方創生の中にも盛り込まれており、本市の雇用の創出には欠かすことのできない喫緊の取り組みとの認識を持っております。

安曇野市らしい自然環境の中での操業が、その商品の付加価値を高める PR にもつながると確信しており、新産業団地の造成実現には課題が大きいのも事実ですが、本市の将来の活性化に向け、安曇野市のイメージ戦略を全面に打ち出した、豊かな環境での産業団地の造成を実現させなければと考えております。

また、従業員の安定的な雇用継続、市内の既存企業の経営安定、規模の拡大などにも支援を継続し、また、必要に応じ既存企業の雇用を守る観点から、柔軟な支援制度の拡充を図ることも必要と考えております。

しかし、働く場の確保を積極的に行っても、人材の確保が一方では大きな課題として存在します。そのことは、工業振興ビジョンにも触れておりますが、若年女性を含む若者が働ける場の確保と、若者にとって魅力ある地域づくりなど、地方創生に盛り込まれた施策の実践は、安曇野市が将来にわたり活力を保持していくためには、喫緊の課題として捉えております。

これらのことを踏まえ、今後も、安曇野のネームバリュー、イメージ、環境、地域資源を求めた企業誘致に取り組んでいきたいと考えております。

【中学生議会 市長答弁様式1】

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	大山至議員
発言順(通し番号)	NO:9	所 管 課 ・ 室 名	農林部農政課

質 問 事 項	<p>最近お菓子里に安曇野産わさびが使用されているが、売り上げに影響があるか。</p> <p>全国シェアでは静岡県産に後れを取っている状況であるが、安曇野産の良さをPR する必要がある。一案としてわさびの抗酸化作用に着目した美容関係の商品を開発し、PR することを提案するが、どうか。</p>
---------	--

【部長答弁】

続いて、大山議員のご質問にお答えします。

議員質問の菓子類への使用による売り上げ等への影響についてですが、これは、加工業者が加工用として仕入れたわさびを菓子類に利用するものですので、直接生産者に実感が無い状況です。しかしながら「安曇野産わさび」という表示が「わさびチップス」や「わさびコロケ」などの商品にされていることから、宣伝効果はあると考えております。

また、議員提案の美容関係への活用ですが、わさびには解毒代謝酵素を活性化させる「スルニフィル」という成分が多く含まれており、体から不要なものを排出する「デドックス作用」や「血液をサラサラにし、美しい肌に必要な栄養素を細胞へ届ける新陳代謝」が促進されるなどと言われております。

一般的に、「わさび」は「おさしみ」や「お寿司」などに使われることが主に知られておりますが、「美容」に関しても効果があることは、余り伝わっていないことから、今後、販売戦略のひとつとして、わさび組合を通じ検討して行きたいと考えます。

市といたしましては、引き続き安曇野産わさびのPRを行うとともに、品質向上のためにどのような支援ができるか検討したいと考えております。また、生産量を維持拡大するためには、耕作放棄されたわさび田の解消や、後継者対策等も重要な課題であると考えておりますので、これからも生産者と連携してこれ

らの課題の解決に取り組んでいきたいと考えております。

【中学生議会 市長答弁様式1】

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	上田有人議員
発言順(通し番号)	NO:10	所 管 課 ・ 室 名	農林部農政課

質 問 事 項	<p>農家が年々減少傾向にある。その要因として農業を継がないこと、農業所得が少ないと感じている。</p> <p>対策として、農業のメリットや仕事内容を掲載した「パンフレットの作成配布でPR」することや、農業に興味を持った人向けに「農業体験」ができる場所等の提供があれば、農産物量の増大、荒廃農地の解消による景観の保全により観光客も増えるのではないかな。</p>
---------	--

【部長答弁】

続いて、上田議員のご質問にお答えします。

市長からも答弁したとおり、既に安曇野市では、農家の要望を聞き取りながら、農家支援対策をして来ております。

そのひとつに、農業後継者を増やす為に、国の「青年就農支援金制度」や市の「親元就農支援金制度」を使い、財政的支援を実施しており、徐々にではありますが、農業後継者が増加傾向にあります。

また、農家所得が少ないことを補う国の制度（経営所得安定対策）の活用や市が取組む、収益性の高い園芸野菜（夏秋いちご）、機械化で効率を図る（玉ねぎ）、更には「りんご」などの「くだもの」の生産拡大を図る支援制度を検討し、今後の活性化に取り組んで行きたいと考えております。

更に、市内にお住まいの非農家の皆さんが、小さな畑を借りて農産物を育てる「市民農園の開設」をしてありますが、人気があり市内に273区画ある農園は、現在100%の利用率となっております。

議員から提案頂いた、こういった国や市等の農業情報を知って頂く為に、市では「安曇野市報」「市HP」等を作成し、市民等に情報提供をしてきております。

また、新たに「農業で生計を立てたい」と希望する市民窓口

として、市役所の農政課内に「就農支援室」を設け、JA 職員が常駐し、具体的な相談に答えさせて頂いております。

議員から提案頂いたことを参考に、更に充実した PR 等に努め、農業後継者の確保に努めて行きたいと考えております。